



## まんぷく通信

vol.4

### チェンセン 子どもの家 の様子

現在、アーサーパッターデッキ財団の運営する「子どもの家」では、約60人の子どもが生活している。但し、10月・3月～5月の学期休みの時期には、他県で寄宿生活を送っている子どもたちが帰ってくるので一気に120人と倍の子どもたちが共同生活をすることになる。

子どもの家に暮らす子どもたちの多くは、過去にストリートで物乞いを強制させられたり、両親から虐待を受けてきた。学校が休みになって実家に帰ることが出来るのは少数である。多くの子どもたちは、この「子どもの家」を心の拠り所としている。例えば、家に帰してしまうと、再び物乞いを強要されたり、周囲に麻薬中毒者や麻薬売買に関わる者がいるなど悪影響を受けてしまう可能性もある。そのような理由から、保護者が自ら迎えに来て、なお且つ家庭に前述のような問題がない場合のみ帰宅させるが、それでも中には、物乞いなどをして新学期が始まっても戻って来ない子どももいる。家族と過ごす時間は貴重なもので、できるだけ確保すべきだが、子どもの安全を第一に考えなくてはいけないので判断をするスタッフも慎重にならざるを得ない。

通常でも45キロの米袋を月に20袋消費しているそうだが、学期休みの時期には、45キロの米袋は1日で無くなるそうだ。月にしてみると1350キロもの米を消費していることになる。

保護された時には、栄養失調だった子どもも少なくないが、子どもの家で温かい食事をおなかいっぱい食べられることは、心身の回復に必要不可欠なことである。



おみやげのドーナッツをほおぼる子どもたち



ランチタイムは満面の笑み！



### チェンセン 子どもの家 の養鶏プロジェクト

2010年のスタディで訪問した際に、養鶏事業に取り組んでおり、将来的には卵を近隣の市場などで販売し、その収益を子どもたちの食費に回すという案があった。

その後、順調に養鶏は行われているものの3月の想像を超える暑さなどで多くの鶏が死亡。養鶏指導が入り、状況は改善されたが、気温が高いと、あまり卵を産まないために1日に30個程度で、子どもたちに1人1個というわけにはいかない。

予定通りの収穫があれば、子どもの家の子どもたちの食事として提供されるだけではなく、メーサイにある同財団のドロップインセンター（シェルター）に週に100個くらい分けられるのだが、ままならないのが現状である。



山のような野菜も  
あっという間になくなってしまふ

## チェンセン子どもの家 今後の展望

陸稲を植えてみて、米の自給が可能か様子を見る。但し、以前から問題になっている土壌の問題があるので陸稲がきちんと生育するかは不明。隣接した農業用地を4.3ライ(6880平方メートル)購入し、長期的に食料を自給自足できるように備えている。また、現在最も大きな懸念事項である水の問題は、水質検査を行い、鉄分の量と白濁の具合に合わせて5万バーツ程度の浄水器の購入を検討している。

養鶏のプロジェクトも、順調にいった評価が良ければ将来的には鳥小屋を増築して、鳥の数を増やしたいと思っている。

2011年3月に発生したミャンマーでの地震の影響で、孤児になってしまった子どもがいる他、今まで暮らしていた土地を売るなどしてタイ国境近くに引っ越してくる人が増えているようだ。その動きに伴い、国境付近でのストレートチルドレンの増加が不安視されている。

いつでも子どもたちの心の拠り所になれるよう、心がけているようだ。



食事の前にはお祈りをします

## 書き損じはがき ご寄付のお願い

おなかいっぱいプロジェクトは、開始当初から皆さまからのご寄付と書き損じはがきのご寄付で実施されています。事務局に届いた書き損じはがきは、金額別に100枚ずつの束に整理し郵便局で切手シートに交換し、郵送費に充てたり、換金したりしています。多くの皆さんからご協力いただくことで、プロジェクトを継続することができます。これからもご協力いただけますようお願い申し上げます。

- ◆ 書き損じはがき 送り先：〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9階  
アジアの女性と子どもネットワーク 行
- ◆ まんぷく基金 振込先：郵便振替口座：00200-0-4109 口座名：AWC  
\*備考欄に「まんぷく基金」と明記してください



## ご寄付下さった皆さま / 送金報告

### ご寄付いただいた皆様：

青井弘之・あおぞら幼稚園・青山佳子・朝廣玲子・阿部潔・安藤芳子・池山洋二・伊藤康子・稲子谷三枝子・稲葉浩子・恵津子ジュリエットローズ・大濱悦子・尾形登志雄・岡部富士夫・落合貴美恵・加藤弘子・金子安男・金田むつみ・貴田晞照・北瓜一夫・橋田和子・楠直子・小島みゆき・小島みゆき・齊藤徹・佐々木修司・佐々木律・佐藤志津子・佐藤みどり・重原文明・城条洋子・鈴木勇・住吉昭子・関谷裕子・高品都・竹内知珠子・橋佳子・津田厚子・寺尾和子・出羽明子・長島孝行・長島道子・永田敬子・原梓・原輝美・福島郁子・藤木マサヨ・沓掛典子・マリ・クリスティーン・丸山発利・三浦孝人・三宅マサヨ・三好慶子・武藤勝司・村田順子・百崎玲子・八島恵理・柳下良平・柳原秀子・山田誠一・山本博子・山本美恵子・横浜旭ロータリークラブ・吉池和子・六波羅昭・渡辺京子

皆さま、ありがとうございました。

お名前の間違い・漏れなどございましたら事務局までお知らせください。

### 送金報告：

以下の通り、皆さまからご寄付いただいた「まんぷく基金」と書き損じはがきを換金した収益から送金させていただきました。

2011年 5月 ○○日に  
アーサーパッターデック財団に  
35万円送金しました。

ご協力ありがとうございました。



## 編集後記

「チェンセン子どもの家」はアメリカの団体からの寄付により、新しく子どもの寮が建設されました。このようにハード面ではどんどん良くなっているのですが、食費が足りないという問題は解決していません。畑を作ったり、養鶏をしたり、自給自足できるように努力はしているのですが、子どもたちが小さいこともあってなかなか難しいようです。子どもの家を訪問して、おなかいっぱいプロジェクトの必要性を切に感じました。これからも、子どもたちの健全な成長と自立のために応援していきたいと思えます。

## 編集・発行



Asian Women & Children's Network

## アジアの女性と子どもネットワーク(AWC)

〒231-0015 神奈川県横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F YAAIC内

Tel/Fax : 045-650-5430 E-mail : awc@h6.dion.ne.jp

URL : <http://www.awcnetwork.org/>

編集担当：原 梓・落合 貴美恵

発行責任：山本 博子